

材木を起点に事業の幅を広げて、強い家づくり・強い街づくりを支援し、結束力の強い地域コミュニティづくりを推進する。



どんな事業をされていますか？

「JAS構造用製材×合板」による国産材複合梁

1966年に川合材木店として創業して以来、材木の販売を主な事業としている。販売額は60%が材木、35%が合板などの建材、残り5%が不動産事業となっている。販売先は県西部エリアの工務店や大工が中心で、130社ほどである。

材木は、国産材を積極的に取扱い、地元の天竜材に加え、県外からも調達し、スギ、ヒノキが大半を占める。取扱いの基準としているのが目視等級区分と機械等級区分のJAS構造用製材で、耐震等級3の長期優良住宅の普及に力を注いでいる。2019年には47%だった普及率は、2024年に目標としていた70%を達成した。耐震強度のほかにも建物の気密性も重視し、太陽光を活用した快適な温熱環境、健康的な空気環境づくりも支援している。



国産材複合梁を用いた加工場 外観



スケールの大きな鉄骨の加工場



寸法別に最適な配置が可能な収納棚

事業の特長や強みは何ですか？

材木店としてみると、国産材の在庫量の豊富さがあげられる。顧客にとっては欲しい材がすぐに手に入り、工期の短縮につながる。在庫量維持のために、製材所や商社など、全国の仕入れ先に足を運び、関係を深めてきた結果である。東日本大震災のときも、仕入れ先の協力があって在庫を切らすことなく供給できた。また、(一社)住宅管理ストック推進協会をはじめ、熱意と向上心にあふれるメンバーが集う各種団体に参加し、耐震性、省エネ性、保全管理、温熱・空気環境など、多方面から、求められる材の性能や施工法を学んでいる。この知見を活かし、適切な材料を提案することで、強く快適な家づくりを支援することができる。

代表的な製品、サービス、設備などは？

2023年に完成した国産材複合梁を用いた加工場は、木造建築の新たな可能性を実践したものである。JAS認証の国産材を使った大スパンの構造で、規模は17m×32m、梁下4.5mで、最大17mにわたって柱のない空間を実現した。温熱環境は、鉄骨に比べて夏は2℃低く、その差が体感できる。

ハード面の特長がこの加工場だとしたら、ソフト面では地域コミュニティづくりへの支援がそれに当たる。地元の小学校を舞台に子供たちの成長を支援するイベント、倉庫の材木の見学をするツアー、SNSでの動画配信など、一般ユーザーが当社を知るきっかけをつくりつつ、若い人材の獲得にも一役買っている。

また、被災地支援として、大工さんとプロボノ(プロのボランティア)を結成した。洪水時など、まずプロボノが被災した住宅の床を上げ、建物の劣化を防ぐ作業をしてから、一般のボランティアに入ってもらうことで、復旧作業を効率的に進めることが可能となった。

今後の展望をお聞かせください。

日本は少子高齢化により、働き手の確保が課題となっており、今後、法改正により、外国人労働者の定住化が進むと考えられる。これまでの出稼ぎ、仮住まいではない永住に向けた住環境づくりが求められるが、そのニーズは出身国ごとに違ってくる。東南アジア等への海外視察もしており、日本の住まいというこれまでの既成概念にとらわれない、柔軟な家づくりにも取り組んでいきたい。

一方で「防災」というテーマからビジネスの芽を育てていきたい。当社オフィスは、ショールームでもあるが、実験棟でもあり、倉庫の屋根にソーラーパネルを設置し、EV車2台を蓄電池にして、室内の電気をまかなっているほか、今後は雨水を活用した温水シャワー室も設置する予定である。防災というBCP(防災に備えた事業継続計画)の切り口から、木材に加え、多彩な機器や設備も企業にも提案していきたい。



防災をテーマに建築されたオフィス棟



強く快適な家づくりへ
今後の展望を語る
川合伯員 代表取締役

取材日：令和6年8月6日

天龍木材協同組合 株式会社カワイ

代表取締役 川合伯員

静岡県磐田市合代島1212

TEL. 0539-62-5656 FAX. 0539-62-9116

Mail: nkawai0723@kk-kawai.com

設立：1966年川合材木店として創業

1973年株式会社カワイ設立

事業内容：材木・建材・サッシの販売および
不動産事業

従業員数：17名

年間売上高：10億円(令和5年度)

URL：<https://www.kk-kawai.com/>



木材を効果的に活用したオフィス空間

発行：静岡県木材協同組合連合会